

素	我
敵	が
自	家
慢	の

## 「この家が大好き！」 ウッドデッキに こども達の笑い声がひびく ---自然素材と自然エネルギーの家---

2011年デザインコンテスト審査員特別賞受賞  
鹿児島県曾於市 有川邸 (株)松元建設

取材先は、デザインコンテストのグランプリ、審査員特別賞、優秀賞の中から、今年のテーマ「自然と共生する」に合った作品を選びました。

宮崎県の県境に近い鹿児島県曾於市。九州南部特有の明るい日差しにあふれたこの地方では、時間がゆったり流れている。有川邸の敷地は113坪。南側を広く開放して建てられた総2階建てのシンプル



古い民家で梁や天井が見えるのが好きなご主人の希望で、天井は梁が現しとなっていてとても良いアクセントになっている。

面の質感がとても暖かい。「夜、プラケットの照明だけでいると雰囲気が最高なんですね。」と、ご主人はこの壁をたいてそう気に入っているご様子。畳や浮造りの床と言い、壁と言い、あまりツルツとしてるものでなく、質感を直に感じられるものがお二人のお好みのようだ。2階の窓から下を見るとリビングが見え、



上:有川さんご夫婦 / 下:片流れの屋根勾配を生かし、登り梁がそのまま現しとなつたダイナミックなロフト的空間。

ウッドデッキでは夏場や暖かい日には、食事をしたり友人家族とバーベキューをしたり、とても楽しい空間ですとのことです。外に出て広い片流れの屋根面を見ると予算的には厳しかったが、松元建設さんの勧めもあり、先を考えて設置した。今まで出て驚いた。電気料金の明細を見せていたら、毎月かなりの黒字となっている。有川家では、この夏あまりエアコンを入れなかつたそうだ。「風があるからですか?」とお聞きすると、意外な答えが返つて来た。「風は良く通りますが、家の窓から下を見るとリビングが見えます」と嬉しそうにご主人が話す。有川家の断熱材は木質纖維からできたセルロースファイバーで、これを吹込施工で壁内に隙間無く充填している。これと5ミリ厚のシラス壁が、相乗効果で熱貫流率の低い土壁と同じような働きをし、日本古来の民家のように、中に入ったら「ヒヤツ」とする環境を作り出している。自然素材で作る意義を有川家で再認識した。

「住み心地はいかがですか?」とお尋ねしたら、全員声をそろえて、「最高です」とお答えになつたのが印象的だった。

有川邸の建坪は34坪。4人家族としては決して大きはない。面積を抑えていろいろな工夫を凝らし、経済面からも環境負荷低減の観点からも、快適な住まいを実現する、それが理想的な住まいがないだろうかと感じた。



(株)松元建設のスタッフと有川家の皆様

所在地:鹿児島県曾於市  
家族構成:夫婦+子供2人(6歳、2歳)

敷地面積:376.07m<sup>2</sup>

延床面積:112.80m<sup>2</sup>

(1階 71.29m<sup>2</sup> 2階 41.51m<sup>2</sup> 34.12坪)

構造:木造在来工法

竣工:平成23年2月1日

(工期:平成22年10月2日~平成23年1月31日)

設計・施工:株式会社松元建設 (0986-26-7322)



リビングの吹抜を見上げると2階子供部屋の窓が見える。

な建物。窓を開ければ日当たりの良いウッドデッキから室内に風が通り抜ける。風の流れの取り方と、気配を感じるよう上下階のつながりがよく考えられている。独立性とパブリック性を上手く使った分けた巧みなプランだ。設計者の米平さんと久保さんのセンスが光る。

### ● (株)松元建設との出会い

施工は、宮崎県都城市的(株)松元建設。

実家の改装で、丁寧な仕事ぶりが気に入



壁面の一部には床から天井まで木目の綺麗な杉の無垢板が張ってあり、シンプルな空間の中に「華」を添えている。

地産地消で地元の  
創業以来貫して  
地元の材を使い、自然素材で家を建てている。  
がきつかけでお願  
いする事になった。  
松元建設さんは

常に共感したという。設計者と施工者と  
建築費は少し高くなつても、将来を長い  
社長の信念だ。有川さんは最初その事は  
良く知らなかつたそうだが、プランの相  
談を通してお話を聞くうちに考え方には  
必ず見ればその方が良いというのが松元  
が感じられて安心です」と奥様。

ウッドデッキでは夏場や暖かい日には、食事をしたり友人家族とバーベキューをしたり、とても楽しい空間ですとのことです。外に出て広い片流れの屋根面を見ると予算的には厳しかったが、松元建設さんの勧めもあり、先を考えて設置した。今まで出て驚いた。電気料金の明細を見せていたら、毎月かなりの黒字となっている。有川家では、この夏あまりエアコンを入れなかつたそうだ。「風があるからですか?」とお聞きすると、意外な答えが返つて来た。「風は良く通りますが、家の窓から下を見るとリビングが見えます」と嬉しそうにご主人が話す。有川家の断熱材は木質纖維からできたセルロースファイバーで、これを吹込施工で壁内に隙間無く充填している。これと5ミリ厚のシラス壁が、相乗効果で熱貫流率の低い土壁と同じような働きをし、日本古来の民家のように、中に入ったら「ヒヤツ」とする環境を作り出している。自然素材で作る意義を有川家で再認識した。

「住み心地はいかがですか?」とお尋ねしたら、全員声をそろえて、「最高です」とお答えになつたのが印象的だった。

（株）松元建設のスタッフと有川家の皆様



軒を支える方柱が力強い。天気の良い日はウッドデッキが家族団らんの中心になる。